

安全の確立を基礎に
JR連合への総結集と
政策課題の解決・前進を図り
JR産業の持続的成長と
組合員・家族の幸せを実現しよう
<https://www.jr-rengo.jp>



JR連合

JAPAN RAILWAY TRADE UNIONS CONFEDERATION

日本鉄道労働組合連合会

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1-8-10 東興ビル9階
TEL (NTT) 03-3270-4590
FAX (NTT) 03-3270-4429
1部20円 (但し組合費に含む)
●発行者/上村良成 ●編集者/宮野勇馬

facebook

JR連合

(旧twitter)

JR連合

JR北労組自動車支部へ 2人が加入

8月3日付で、JR北労組(自動車支部)へ新たに2人が加入した。この決断に敬意を表し、加入を心より歓迎する。

加入した組合員はJR北海道労組(JR総連)の対応に疑問を持つ一方、JR北労組の対応に丁寧さを感じ、JR北海道労組を脱退しJR北労組に加入した。これは、JR北労組が日々真っ当な労働運動に取り組んでいる証左である。

《民主化3単組の拡大実績》
(2026年度定期大会以降)

JR北労組 2人 貨物鉄産労 1人

国會議員秘書との意見交換会 JR産業を取り巻く状況と 課題を共有

課題を共有

8月3日、「21世紀の鉄道を考える議員フォーラム」所属国會議員秘書の皆さんと意見交換会を開催した。約40人の議員秘書が参加したほか、JR各単組の政策担当者も参加した。

冒頭、上村良成会長が挨拶に立ち、「令和8年熊本地震」被災者への哀悼の意とお見舞いを申し上げるとともに、鉄道関係の被災状況を説明した。また、リニア中央新幹線、整備計画路線に係る局面的進展に言及し、先に開催したJR連合政策シンポジウムや国土交通大臣要請行動の成果を強調し、フォーラム所属議員の支援に謝辞を述べた。加えて、被害被害の深刻さや鉄道予算拡充の必要性に触

「令和8年熊本地震」 全国の仲間と連帯し 相互扶助・助け合いの精神を発揮

「被災者の支援と復旧・復興に向けて」 声明

7月28日16時27分、熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード7.1の大地震が発生し、多くの家屋が倒壊したほか、JRをはじめとする交通機関など基幹インフラにも大きな影響が出ている。酷暑の中、対応にあたる組合員に心から敬意を表する。

JR連合は、「令和8年熊本地震」に対する声明を発表するとともに、連合が実施する緊急カンパや復興ボランティアに積極的に参加していく。

「令和8年熊本地震」において、お亡くなりになられた方々に心からご冥福をお祈りするとともに、組合員・家族をはじめ、すべての被災された方々に対して、心からお見舞いを申し上げる。

鉄道施設への被害も大きく、九州新幹線の熊本・新水俣間と鹿児島本線の宇土・八代間において長期間運転を見合わせており、8月中の運行再開は困難とされている。

そうした中、連合は、7

月30日に対策本部を設置するとともに、8月20日の執行委員会において、「連合・愛のカンパ」から自然災害等被災救援金300万円を拠出すること、特別(緊急)カンパを実施すること、連合救援ボランティアを9月6日から実施することを決定し、JR連合には10月4日から10日までの第4クールに2人の割り当てがなされた。

JR連合は、8月21日の執行委員会において、連合の取り組みに積極的に参加していく方針を確認する

とともに、連合救援ボランティアについては、JR連合とJR西労組から派遣することを決定した。

JR連合は、労働組合の本分である相互扶助・助け合いの精神を発揮し、被災された組合員・家族の支援、地域の復興に総力を挙げる。

◆

その後、8月13日には「令和8年8月千葉豪雨」災害が発生し、外房線の一部区間では長期間運転を見合わせる事となった。被害に遭われた皆様にお見舞いを申し上げる。

被災者の支援と復旧・復興に向けて ～「令和8年熊本地震」に対する声明～

7月28日16時27分、熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード7.1の大地震が発生しました。熊本県において最大震度7を観測したほか、九州全域をはじめ、広い範囲で強い揺れを観測しました。家屋の倒壊、大規模な土砂崩れ、事業所・設備の損傷など、各地で甚大な被害が生じています。また、余震が今もなお続き、多くの方々が避難所での生活を余儀なくされ、不安な日々を送っています。お亡くなりになった方々に心からご冥福をお祈りするとともに、組合員・家族をはじめ、全ての被災された方々に対して、心からお見舞いを申し上げます。

この地震により、水道、エネルギー、JRをはじめとする交通機関など基幹インフラにも大きな影響が出ています。鉄道では、鹿児島本線八代駅構内にて機関車1両と貨車4両が横転したほか、九州新幹線において架線の断線、レールのゆがみ、橋梁のズレに加え、防音壁の落下が200カ所以上発生しました。また、在来線においても、電柱の損傷や乗降場の破損が多くの箇所で見られ、未だ全容が把握できていないほどです。

発生後、組合員の懸命の復旧作業により、本日、九州新幹線博多ー熊本間の運行が再開されました。現在も昼夜を問わず復旧作業に従事している、グループ労組を含めた組合員に改めて敬意を表します。

この間、JR九州労組は、組合員に徹底的に寄り添う決意を示したコメントを発するとともに、被災翌日には熊本地方本部に支援物資を届けるなどの取り組みを行いました。また、会社に対しては、安全が確認できない状況で出勤や作業を求めないことや、安全体制の徹底、適切な交代・休憩・食事・睡眠の確保や長時間労働の防止などを求めています。

今後も酷暑や台風など、様々な事象が発生することが想定されます。今こそJR連合に集う全国の仲間が連帯して、労働組合の本分である相互扶助・助け合いの精神を発揮し、被災された組合員・家族の支援、地域の復興に総力を挙げよう！

2026年7月31日
日本鉄道労働組合連合会 (JR連合)

2026年活動をスタート 「JR連合ビジョン」の実現に向け各種委員会で討議 運動方針に基づく具体的な取り組みを確認

JR連合は、7月30日より各種委員会を開催し、第36回定期大会で確認された運動方針に基づき、具体的な取り組みを開始することを確認した。

会議に出席した各種委員は、単組の現状と課題について積極的に討議を行い、課題の解決に向け、各単組の事例を参考にしつつ、JR連合と連携して取り組むこ

とを確認した。

JR連合は、「JR連合ビジョン」実現に向け、単組から寄せられた課題に耳を傾け、次代を見据え、未来志向の運動を引き続き力強く展開していく。

各単組から委員・オブザーバーの参加のもと、JR産業が抱える課題と解決に向け、議論を行った。

具体的には、交通政策に係るランドデザイン策定、2027年度政府予算編成および税制改正、「JR連合重点政策集2027-2028」の策定のほか、緊急重点政策課題である「JR北海道・四国・貨物の経営

WE形式にて開催された委員会には、各単組から委員と、グループ労組からのオブザーバーが参加した。議事では、2026春季生活闘争の振り返りを行う

外で拡大する格差の是正や、労働条件改善など、中長期的な視点で賃金・労働条件を「働きの価値に見合った水準」に引き上げる必要性を意思統一した。

また、引き続き賃金実態調査を「JR7単組」「グループ労組」「自動車連合会」を対象にそれぞれ実施し、賃金目標や社会水準等との比較・検証を行うとともに、労働条件比較表の更新についても確認した。

れ、政策推進への理解と協力を要請した。

続けて、組織・政策課題の勉強会を実施し、谷口昌隆組織局長からJR労働界の現状と直近の動向について、石川敏也産業政策局長からは新幹線ネットワークの構築・計画推進の必要性や2027年3月末に期限を迎えるJR北海道・JR貨物の抱える課題対応や運賃・料金制度、地方ローカル線等の諸課題に係るJR連合

の主張を説明した。

その後、国會議員選出エリアごとにJR各単組で分かれ、政策担当者が各単組の政策課題を説明し、意見交換を行った。意見交換では、策に対する質問等、多岐にわたる質問意見が出され、



秘書の皆さんに取り組みへの協力を要請

様々な課題を通して、議員はもとより秘書の皆さんとの意見交換の場の重要性を意思統一できた。

最後に、今井孝治事務局長よりJR連合・各単組役員とのより一層の連携強化を要請し、意見交換会を締めくくった。

政策・組織の戦略的展開について議論を深めた。

具体的には、民主化闘争の取り組みをさらに高度化していくため、地協との連携について議論を深めるとともに、第2回委員会は、地協担当者を含めた拡大形式で実施することを決定した。

また、引き続き組織拡大に向けた取り組みを積極的に進めていくことを確認した。

備新幹線建設を進めるための環境・仕組みの改変、構架」の実現に向けた取り組みについて、議論を深めるとともに、各単組の産業政策課題の取り組み等について、意見交換を行った。



第1回産業政策委員会 (8月3日)

重点政策集の策定を進める 第1回産業政策委員会 (8月3日)

第1回産業政策委員会 (8月3日)

格差是正と労働条件改善を図る 第1回労働政策委員会 (8月6日)

第1回労働政策委員会 (8月6日)

各単組から委員・オブザーバーの参加のもと、JR産業が抱える課題と解決に向け、議論を行った。

具体的には、交通政策に係るランドデザイン策定、2027年度政府予算編成および税制改正、「JR連合重点政策集2027-2028」の策定のほか、緊急重点政策課題である「JR北海道・四国・貨物の経営

WE形式にて開催された委員会には、各単組から委員と、グループ労組からのオブザーバーが参加した。議事では、2026春季生活闘争の振り返りを行う

外で拡大する格差の是正や、労働条件改善など、中長期的な視点で賃金・労働条件を「働きの価値に見合った水準」に引き上げる必要性を意思統一した。

また、引き続き賃金実態調査を「JR7単組」「グループ労組」「自動車連合会」を対象にそれぞれ実施し、賃金目標や社会水準等との比較・検証を行うとともに、労働条件比較表の更新についても確認した。

2026年度役員任務分担を決定

第36回定期大会以降に開催した執行委員会（第1回：6月17日、第2回：7月15日、第3回：8月21日）において、三役・執行委員の任務分担を

決定した。

また、特別執行委員の指定を行い、2026年度執行部の体制を整備した。

役職名	氏 名	任 務 分 担
会 長	上村 良成	総括 J R 私傷病共済運営委員会委員長・男女平等参画推進委員会委員長
副会長	人見 圭一	労働政策委員会副委員長
	小林 徹志	J R 連合ビジョン推進委員会副委員長
	鎌田 隆司	組織・財政検討委員会委員長、政治対策委員会委員長
	羽野 敦之	産業政策委員会委員長
	中村 鉄平	安全対策委員会委員長、産業政策委員会副委員長
	吉田 祥司	労働政策委員会委員長
事務局長	辻村 和裕	政治対策委員会副委員長
	今井 孝治	事務局総括、総務財政局長、福祉対策局長 J R 連合ビジョン推進委員会委員長、組織・財政検討委員会主査、男女平等参画推進委員会主査、J R 私傷病共済運営委員会主査、退職者連絡会担当
執行委員	宮野 勇馬	企画局長、広報局長 安全担当（安全対策委員会主査）、総務財政・福祉対策担当、ボランティア担当、J R 健保担当、組織・財政検討委員会副主査、J R 私傷病共済運営委員会副主査、J R 連合ビジョン推進委員会主査、男女平等参画推進委員会副主査
	石川 敏也	産業政策局長、教育局長 自動車連絡会主査、安全対策委員会副主査、J R グループ労組連絡会副主査
	住吉 一家	労働政策局長、国際局長 J R グループ労組担当（J R グループ労組連絡会主査）、青年・女性委員会担当、医療連絡会担当
	谷口 昌隆	組織局長、政治局長 J R 連合ビジョン推進委員会副主査、自動車連絡会副主査
	榎裕 文野	安全対策委員会副委員長、J R グループ労組連絡会副主査
	川端 準一	組織・財政検討委員会副委員長、医療連絡会副担当
	吉田 春菜	男女平等参画推進委員会副委員長、青年・女性委員会副担当
	相良 夏樹	J R 東海ユニオン（書記長）
特別執行委員	堀越 一輝	J R 西労組（特別執行委員）
	大野 友和	鉄構労（中央執行委員長）
	海上 弓彦	グループ労組連絡会代表幹事
	高杉 恭平	青年・女性委員会議長
	石川 和磨	青年・女性委員会事務長
	中山 耕介	連合本部派遣（組織企画局長）
	福森 敬和	交運労協派遣（事務局次長）
	本田 雅明	こくみん共済 coop 派遣（交運共済専務理事）

2026年度の運動始動 JR7単組 運動を磨き上げる



イーストユニオン第15回定期大会

イーストユニオン第15回定期大会 企業内労働組合としての 運動を磨き上げる

イーストユニオンは7月11日、都内において第15回定期大会を開催し、向こう1年の運動方針を確立した。

冒頭、執行部を代表して挨拶に立った小林徹志中央執行委員長（JR連合副会長）は、「昨年の組織拡大を確かな変革の芽生えと捉え、企業内労働組合として、組織の強化・拡大を強力に推し進めていく」と力強く呼びかけた。

JR連合からは上村会長および谷口組織局長が参画し、上村会長は、JR東日本会社においてイーストユニオンにしかできない取り組みをJR連合と連携して

推進していく決意を述べた。JR連合関東地方協議会からは相良夏樹議長が参画し、組織課題について、イーストユニオンの必要性を働く者・会社・世の中に訴えていくためにも、関東地協はさらに連携していく旨を伝えた。

議事では、安全、労働条件向上、組織強化・拡大、政策実現と政治活動を柱とする運動方針案が提起され、5人の代議員から方針案を補強する発言があった。執行部答弁、川口直人書

記長の集約答弁後、すべての議案が採択された。また、長きにわたってイーストユニオンを支えてきた添田寿男中央執行委員が退任した。最後に、小林中央執行委員長が団結がんばろうで締めくくった。

JR北労組第25回定期大会 民主化闘争完遂に向けた 運動方針を確立

JR北労組は7月26日、札幌市内において第25回定期大会を開催し、2026年度の運動方針を確立した。

冒頭、挨拶に立った人見圭一中央執行委員長（JR連合副会長）は、安全の確立に触れたうえで、政策課題解決に取り組むとともに、引き続き組織強化・拡大に取り組む決意を示した。

JR連合からは上村会長および谷口組織局長が参画し、上村会長は、JR東海ユニオンからは半田健

介中央執行副委員長が参画し、JR連合・JR北労組

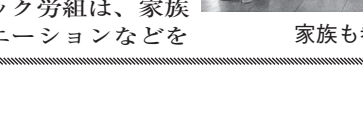
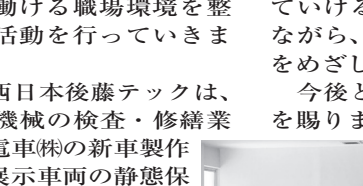
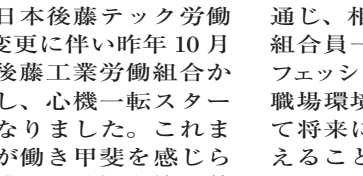
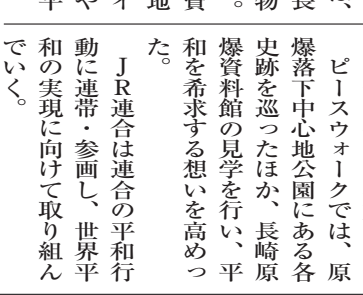
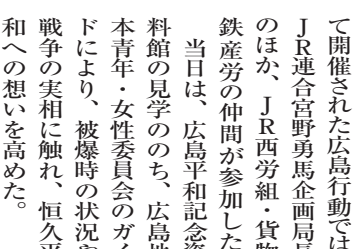
連合は、「2026年平和行動in広島」「2026年連合平和行動in長崎」をそれぞれ開催した。

8月5日から6日にかけて開催された広島行動では、JR連合宮野勇馬企画局長のほか、JR西労組・貨物鉄産労の仲間が参加した。

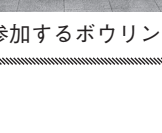
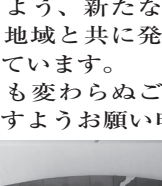
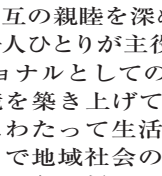
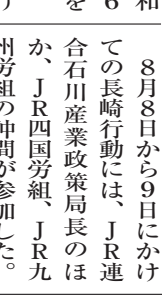
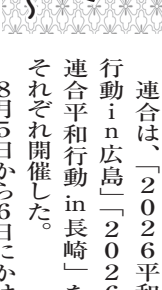
当日は、広島平和記念資料館の見学ののち、広島地本青年・女性委員会のガイドにより、被爆時の状況や戦争の実相に触れ、恒久平和への想いを高めた。

JR連合は連合の平和行動に連帯・参画し、世界平和の実現に向けて取り組んでいく。

最後に人見中央執行委員長が団結がんばろうで、新年度の運動を力強くスタートさせた。



連合平和行動 世界平和の実現に向けて 広島・長崎



こくみん共済 NEWS

「たすけあいの輪をむすぶ」
こくみん共済 coop は、
次のステージへ



公式キャラクター
ピットくん

たすけあいの輪をむすぶ

こくみん共済〈全労済〉

全国労働者共済生活協同組合連合会

「こくみん共済 coop」は営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出資金を払い込んで居住地または勤務地の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。

もっとつながろう グループ労組めぐり

私たちがJR西日本後藤テック労働組合は、社名の変更に伴い昨年10月の定期大会で、後藤工業労働組合から組合名を変更し、心機一転スタートを切ることとなりました。これまでに以上に組合員が働き甲斐を感じられる、安心して働ける職場環境を整えられるよう、活動を行っていきます。

株式会社JR西日本後藤テックは、鉄道車両、設備機械の検査・修繕業務に加え、一畑電車(株)の新車製作の受注や、SL展示車両の静態保存修繕事業なども行っています。

2023年には、鉄道インフラを支えてきた技術を活かし、JR西日本グループでは初となる、生活インフラである下水道事業へ参入しました。

私たち後藤テック労組は、家族を交えたレクリエーションなどを

JR西日本後藤テック 労働組合

通じ、相互の親睦を深めるとともに、組合員一人ひとりが主役となり、プロフェッショナルとしての誇りを持てる職場環境を築き上げています。そして将来にわたって生活インフラを支えることで地域社会の成長に貢献していけるよう、新たなことに挑戦しながら、地域と共に発展し続ける事をめざしています。

今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



家族も参加するボウリング大会